

令和6年度 ほどほどの会

日時:2024年11月19日(火)15:30~17:00

場所:常盤台病院

参加者:田中(わおん)、加藤(リンク)、藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、田村・早川(基幹相談支援センター)、新井田(あかね工房)、小池(港北病院)、西東(今井地域ケアプラザ)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

【議題】

1. 常盤台病院 OT との協働活動

①生活教室

院内コロナ流行のため10月参加は延期となった。今年中にゲームのプログラム開催日に参加予定。

→2月に参加予定で調整していく。

②出張あかね工房

○自立協HP掲載用コラムについて

タイトル「ピアサポートを活かして」とする

患者さんの地域移行への不安を払拭することが目的の企画であること、患者さんとあかね工房から参加して下さった利用者の関わりがメインとなることからのタイトル案

→最終版をほどほどの会メンバーへメールで共有いただく

○実体験報告会の実施を受けて、次回以降の計画について

①参加者

退院までの段階に応じてグループ分けする

②実施内容

退院の阻害要因として、地域生活への漠然とした不安、病院の居心地の良さが挙げられる

まずは常盤台病院内で、患者数名に向け何を不安に感じているのか具体的に調査する(お金、住まい、など項目分けすると聞き取りやすいか)。結果をもとに実施内容を検討する

③次年度のアイデア

・入院患者の家族向け社会資源講座:ほどほどの会と家族会コラボ?家族会へ講義依頼するか

・ネットワークの会のあかね以外の事業所でも同じように作業体験・体験者の話での実施は可能か

④頻度

年間のスケジュールをパッケージ化し、2~3ヵ月に一度で開催できるとよいか

3月開催予定 ネットの会内の他事業所とも作業内容を検討できそう

→②について

院内でのアンケート(患者 7 名に実施)結果、阻害要因として「居心地の良さ」が挙げられた。冷暖房設備など環境が整っている、食事もおいしい、顔見知りと離れたくない、など。

施設が嫌な理由:施設へ移ってもできないことがない、病院の方が安心

自宅が嫌な理由:家族に迷惑をかけるから

→開催内容を検討する前に、「何があれば、どうなれば退院したい気持ちになりそうか」などポジティブな聞き取りをしてみる

→次回の参加者を選定する際にOTともご本人たちが不安に感じていることの共有ができるとうい

→企画当日は、ほどほどのメンバー参加時に座談会など組み込んでの聞き取りもできるとよい

2. ほどほどの会の普及啓発について

○地域の援助者を知ってもらうためのアイデア

・協働活動として「地域資源を知ろう」など企画し、院内の年間計画に組み込んでもらう

・社会資源紹介チラシやガイドブック作成など、資源にアクセスしやすい方法を考えていく。

・チラシ作成のイメージ

内容:住まい、通所、お金、病気、相談の領域に分け、一言紹介

デザイン:出張あかね工房の説明スライドを参考に、見開きA4サイズで手に取りやすい形

→詳細の説明を省き、「例えば」で利用できる機関、サービスのみとする。

日中の居場所→デイケア、作業所など

→A4縦のポスターサイズとして掲示する 目的:社会資源があることを知ってもらうきっかけとする

タイトル「どんな暮らしがしたいですか?こんなサービスが利用できます!」

他、みんなの相談窓口シートを相談室にも置いてもらえるとよい

・アセスメントシートの見直し

→評価表として使用するのではなく、体験をしながら振り返るためのシート

どのような支援があれば苦手を補完できるか、支援者の見立てを共有できるとよい

3. その他

・退院支援委員会の参加について

次年度以降を目標に、病院として定期的な日程を決めておき、ほどほどの会メンバーが参加できるとよい

→退院支援委員会そのものではなく別途カンファレンス設定ができるとよい

・在宅医療連携拠点

来年度より障害も含まれる 2月に基幹・センター・在宅医療相談室のスタッフとで顔合わせ

・1月のほどほどの会で次年度の計画について話し合う(2月28日が事業計画の締め切り)

次回:2024年12月17日(火) 15:30~17:00 場所:港北病院